

平成25年度射水市行財政改革推進会議（第1回）議事要旨

- 1 開催日時 平成25年6月5日（水） 午前10時～午前11時30分
 - 2 開催場所 射水市役所小杉庁舎401会議室
 - 3 出席者
 - (1) 推進会議委員
荒木委員、荒谷委員、奥田委員、尾山委員、田中委員、中村委員、福島委員、
牧田委員
 - (2) 当局
副市長、教育長
事務局：行政管理部長、行政管理部次長、財政課長、人事課長、人事課長補佐、
人事課員3名
 - 4 傍聴者等 なし
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 題
 - (1) 第2次射水市行財政改革集中改革プランの実績報告について（資料1、2）
 - (2) 今年度のスケジュールについて（資料3）
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

主な意見等

第2次射水市行財政改革集中改革プランの実績報告について

- (委員) 地域振興会交付金化する取組がいくつかあるが、地域振興会にそれだけの体力がないので、財政的な支援等についてしっかりと協議する必要があると思う。
- (会長) 地域振興会の期待されている役割と実際の体力には、若干のかい離があることは何となく分かるが、これからコミュニティを担うところで非常に大事な役割を果たしていくと思うので、各事業を考えていく必要がある。
- (委員) 収支改善目標額の達成率が2年間で約45パーセントということについて、事務局はどう考えているのか。
- (事務局) 今後は非常に厳しいと認識しており、取組の掘り起しに努める。削減できるものは、ある程度削減してきたので、残っているものは難しい問題があるものが多く、公平性に留意して取り組んでいきたい。
- (副市長) 数値目標については、大変深刻な状況と思っている。事務事業やイベント等のソフト事業を見直しても億単位の金額は出てこないの、「公共施設の見直し」というハードの話になってくる。ある程度の機能集約は避けて通れないと思っているが、地域からは存続の声もあり、課題であると思っている。
- (委員) 市民病院給食調理業務の民間委託の取組について、このような提案がされるのはどうかと思う。
- (副市長) 全国や県内でも調理業務の民間委託を実施している事例が多い。ただ、「病院の給食は治療の一環」という位置付けであり、味の低下や治療に支障をきたすことはないと思っているが、慎重に見極めながら進めていきたい。

今年度のスケジュールについて

- (会長) 今年度も外部評価を行うが、対象事業について意見を伺いたい。
- (委員) コストカットだけではなく、予算配分の変更や集中も我々の仕事だと思うので、教育を受ける機会の格差など、教育環境の問題に手を打つためにも、「小中学校の体制に対しての検討」は必要だと思う。
- (教育長) 現在、教育委員会制度についての議論もあり、「自治体の中で学校教育制度をどうするのか」という議論はあり得る話だと思う。また、学校の運営については「コミュニティ・スクール」という考え方が出てきていることもあり、議論していただく部分はあると思う。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みのこと。

（委員） 教育の問題については、市として監督すべき問題があると思う。悪い実態等をありのままに報告させ、教育の現状を行政で的確にとらえて、それに対する対処を真剣に取り上げていけば、深刻な事態になる前に止めることができるのではないかと思う。

（委員） P T Aでは「家庭で育てて、学校で鍛えて、地域で磨く」という言葉がある。最初は家庭で育てるしかないのので、まずは保護者対策が一番だと思う。それには、保護者と学校との距離感を近くする必要があり、学校開放やホームページの充実等の対策をとられている学校がある。

（委員） 最近の母親は怒りやすく、核家族の場合、子どもがすぐにその対象にされてかわいそうである。

（会長） 教育についていろいろな意見があったが、確かに基礎自治体にとって非常に大事な問題である。「行財政改革の立場から、教育に対してどのような提言が可能か」を考えないといけないと思う。当会議ではそのような議論ができないのであれば、「教育に資源を集中できるように、行財政改革を進める」ことも、問題意識に答える1つの方法だと思う。

（委員） 合併前の旧市町村の事業について、例えば「2つのイベントだったら、それは1つにする」など、合理化や効率化による中身の合併ができてないものがある。合併して8年になるのだから、思い切って取り組む時期にきているのではないか。いつまでも地域間意識のズレがあるのが大きな問題だと思う。

（会長） 「ホッチキス止め」しただけでは、合併の効果は出てこない。今から考えていかないと、「合併後10年の市の在り方」というのは描けないと思う。

（委員） 地域や業界の利害がかかわってくる事業については、市の内部で調整するのは難しいと思うので、外部評価に投げ掛けてはどうか。また、長年実施している市単独の事業や補助金については、「廃止・削減が前提」ではなく、「事業効果を検証する」というスタンスで臨むものがあったても良いと思う。

（事務局） 住民感情として思い入れのあるイベント等については、行政はなかなか思い切ったことができないので、外部評価の「違った視点」で評価していただければ、大変ありがたいと思う。

（委員） 事業の取捨選択をしないと、「一律カット」となって、各事業が十分な取組ができないという弊害が出てくる。取捨選択の基準は「どのような市を目指すのか」によって決まってくると思っており、重要なポイントだと思う。「目

指す市の姿、力を入れるべき事業」を選択していかなくてはならないと思う。

- (会 長) 「どのような基準でメリハリを付けていくか」は非常に大事なところだと思う。メリハリを付けるのは総合計画等になるであろうが、一方で「同じ効果であれば、もっと良い方法があるのではないか」というところが、正に行政改革・財政改革の視点ではないかと思う。
- (委 員) イベントについては、「合併した時点で1つにまとめてあれば、運営側も参加する側も楽だったのではないか」という意見もあるので、考えていただきたい。
- (会 長) 地域間の調整や利害関係が発生する問題については、「原理原則で考えると、こうではないか」という在り方を示すことができると思う。具体的には、「イベントの在り方」や「行政のかかわり方」について、提言が引き出せるような事業があれば、外部評価の対象事業案に加えていただきたい。
- (副市長) イベント等のソフト事業については、歴史や経緯により簡単にいかない部分がある。ただ、平成27年度に「全国豊かな海づくり大会」が射水市で開催されるが、大変大きなイベントであるため、全ての市民の皆さんの力を借りないといけないと思っており、市の一体感が醸成される試金石になるのではないかと考えている。「イベントの在り方」とすれば、全市的イベントの1つのモデルになるのではないかと考えている。